

加古川中流圏域河川整備計画
小野・加東ブロック 第四回懇話会
河川整備計画の目標に関する事項

平成24年10月25日

兵庫県北播磨県民局
加東土木事務所

河川整備計画の構成

現状把握

(前回説明)

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 河川整備計画の目標

第4節 洪水による災害発生の防止又は軽減に関する目標

第5節 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

計 画

(今回説明)

第2章 河川の整備と実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河道の維持の目的、種類及び施工の場所

第3節 河川整備を総合的に行なうために必要な事項

第1章 河川整備計画の 目標に関する事項

<第3節 河川整備計画の目標>

第3節 河川整備計画の目標

1. 対象区間

加古川水系中流圏域内の法定河川

加古川本川：国土交通省管理区間上流端～篠山川合流点

流入支川：中流圏域内の加古川本川に流入する支川
(国土交通省管理区間は除く)

2. 対象期間

対象期間：概ね30年

◇対象区間が広範囲であり、一連の河川整備による効果を発現させるには長期間が必要

3. 整備計画の適用

- ◇「“ひょうご・人と自然の川づくり”基本理念・基本方針」に基づき、当面の目標とする整備水準に配慮
- ◇流域の社会状況、自然状況、河道状況に基づき策定し、段階的な整備を効率的かつ効果的に実施
- ◇策定後に河川をとりまく状況が変化したり、新たな科学的知見や技術の進歩などの変化が生じた場合は、地域の意向を適切に反映させ、適宜、見直しを実施

第4節 洪水による災害の発生の防止

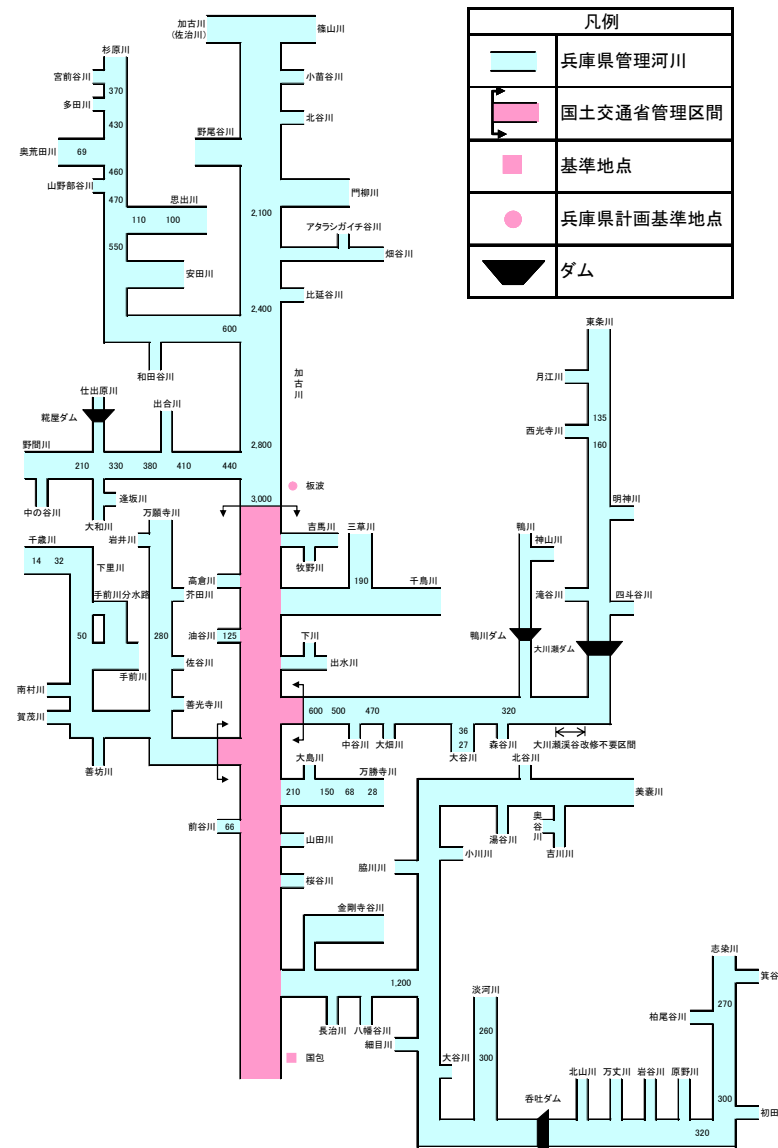
または軽減に関する目標

整備計画目標流量

- ◇ 既往最大洪水に見合った流量
- ◇ 下流の改修状況を見据え、下流区間とのバランスを考慮して目標流量を設定
- ◇ 現在改修中の河川では、現行計画において既往最大洪水流量を安全に流下させることができる場合には、現行計画と同等の目標を設定

改修途上の対応

- ◇ 関係機関や地域住民との密接な連絡体制による被害の軽減
- ◇ 平常時からの防災情報の共有などによる被害の軽減
- ◇ 地域総合治水推進計画との連動による被害の軽減



目標流量配分図

第4節 洪水による災害の発生の防止

または軽減に関する目標

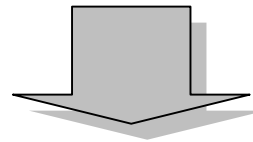
整備計画目標流量設定の考え方

■H16.10洪水の発生以前

◇既往最大規模であったS58.9洪水規模を対象

■H16.10洪水の発生以後

◇S58.9洪水規模を上回るH16.10洪水規模への対応を含めた河川整備計画へ変更



◇S58.9洪水規模を概ね安全に流下させることを目標

◇西脇市街地（本川激特區間）では、H16.10洪水規模を目標

◇支川については、下流や合流先の整備状況に応じて目標を設定

◇ただし、現在改修中の河川では、現行計画において既往最大洪水流量を安全に流下させることができる場合には、現行計画と同等の目標

第5節 河川の適正な利用及び

流水の正常な機能の維持に関する目標

- ◇地域住民が、憩いの場として河川を利用することができ、身近に自然を感じ、恩恵を実感できるような、美しく、安全で、利用しやすい川づくりを推進
- ◇治水・利水・環境のバランスの取れた適切な河川利用を実現するため、関係機関と協議し調整
- ◇現在良好な水質状況を保っている河川は、関係機関と連携しながら、引き続き水質保全を実施
- ◇水質悪化が確認される河川は、水質改善を実施
- ◇河川水の利用の現況、河川景観、動植物の生息・生育環境等に配慮し、河川管理者や関係市町、河川利用者、住民の協力のもと、流水の正常な機能を維持
- ◇異常渇水時には、関係市町、利水関係者等の関係機関と連携し、節水等の広報活動を支援するとともに、必要に応じて行政機関、利水者間の水利用調整のための情報を提供

地域ブロックの各河川における最大取水量

ブロック名	河川名	最大取水量 (m ³ /s)
西脇・多可	加古川	1.855
	杉原川	2.049
	宮前谷川	0.017
	安田川	0.286
	野間川	1.044
	大和川	0.320
	出合川	0.039
	門柳川	0.677
	比延谷川	0.030
加西	芥田川	0.012
小野・加東	加古川	0.106
	吉馬川	0.018
	千鳥川	0.103
	三草川	0.231
	出水川	0.180
	東条川	0.792
	鴨川	0.147
	油谷川	0.304
三木	美囊川	1.025
	吉川川	0.041
	北谷川	0.102
	小川川	0.061
	志染川	0.308
	淡河川	0.106

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

- ◇河川を生育・生息の場とする生物は、周辺の自然や地形、河道内の瀬や淵、高水敷、さらに本川と支川・水路の連続性などに関係しているため、河川整備に際しては、人工的な改変を極力抑え、現在の河川環境を保全
- ◇生態系に著しく影響を与える特定外来生物については、発見した場合、関係機関と連携し、対策を実施
- ◇地域に密着した河川の歴史を大切にしながら、関係機関や住民と連携して水辺に親しめるような河川環境、河川景観の整備・保全を実施